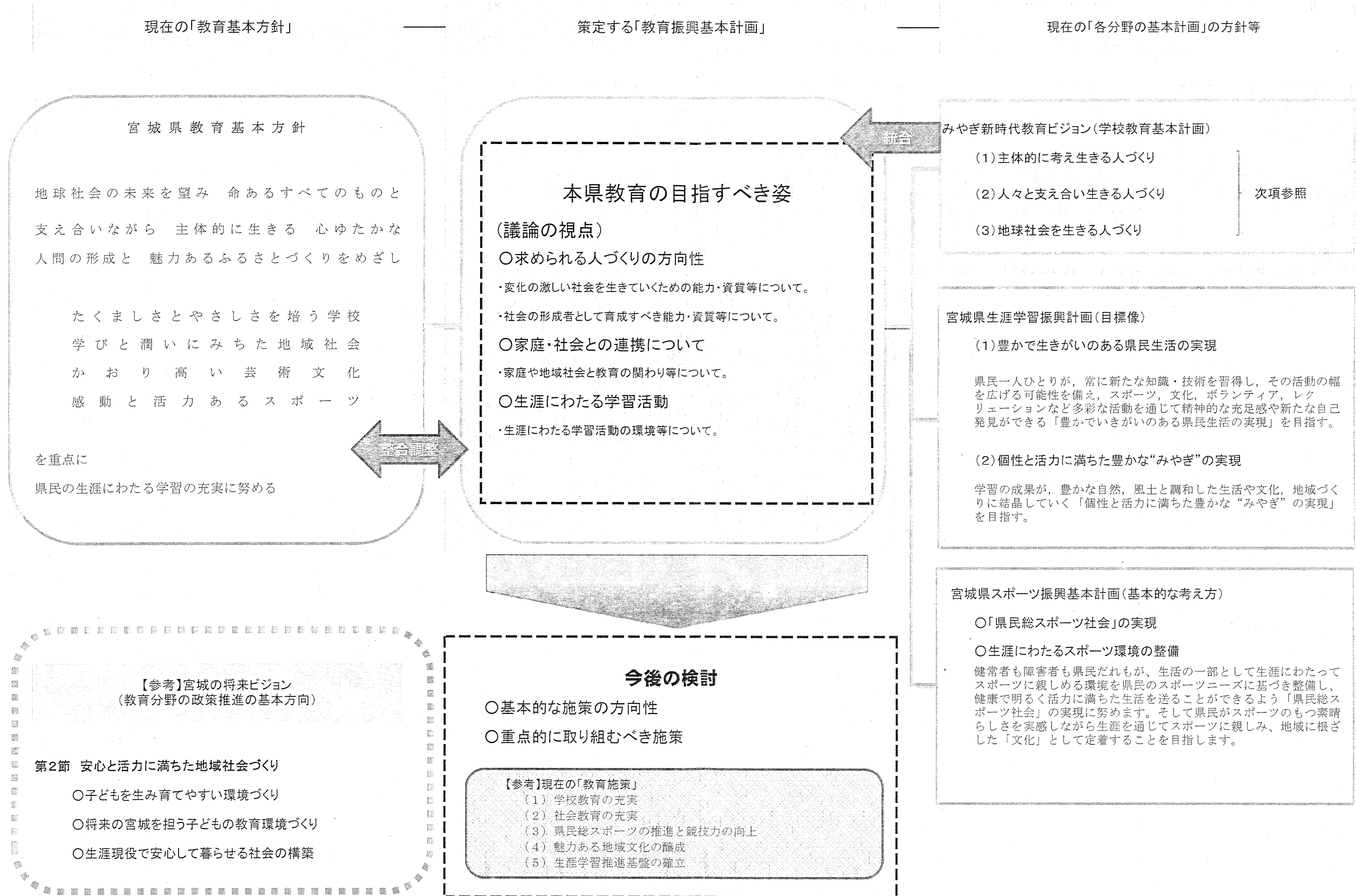


本県教育が目指す方向性についての検討資料

- 1 県の教育方針等について
 - (1) 教育振興基本計画における方針等の位置づけについて
 - (2) みやぎ新時代教育ビジョンに掲げられている事項
- 2 教育基本法、国の教育振興基本計画の基本的な方針等
- 3 県民意識調査における関連調査項目の結果

1-(1) 教育振興基本計画における方針等の位置づけについて



1-(2)みやぎ新時代教育ビジョンに掲げられている事項

時代像

変化の激しい、モデルなき時代

- 東西二極構造崩壊後、国際関係を安定化させる新秩序は未だ確立しておらず、また、その見通しも立っていない。安定的な秩序が形成されない主な要因としては、エネルギー供給の制約による世界経済の低成長化とそれを背景とする南北間の確執、従来の国家の枠組みやそれを支えたイデオロギーの崩壊による民族対立の激化、アメリカの求心力の低下などが挙げられる。これらの不安定要素は、今後も強まりこそすれ、決して弱まることはないであろう。
- 数多くの不安定要素が世界各地に、各レベルで存在し、しかも、グローバル化と言われるように世界が運命共同体化している状況の中では、わが国も常に諸外国の動向いかんで社会が変動し、不安定化することは避けられない。
- しかも、かつての高度成長期にあっては欧米という先進モデルがあり、その後をひたすら追って行けば大過ないという発想が可能であったが、いまや経済面で世界のトップクラスになつたわが国は、今後21世紀においては、自前の努力と能力で道を切り開いていかなければならないという厳しい状況を迎えている。

多様な価値を認め合う時代

- グローバル化の進展に伴い、世界各地の多様な文化が直接接触する場面が増え、また、各国内での人種、民族、文化の混在化も進んで行くであろう。それはわが国も例外ではない。
- このような状況の中で、いわゆる排除の論理に立つならば、接触が摩擦になり、摩擦が対立になり、対立が闘争になり、遂に不幸な事態を迎えることはいうまでもない。
- 従って、異質性の排除ではなく、異質な個々を総合することによって、より柔軟で強靱な社会秩序、世界秩序が形成され得るとの考え方に立って、多様な価値を認め合うことが必要である。
- このことは、個人のレベルにおいても、民族・国家のレベルにおいても同様であり、それぞれの固有の特性や独自性を生かしつつ他者と協調し、連帯していくという姿勢が望まれる。

人間と自然の融合を図る時代

- 近代物質文明は、疑いもなく人類に豊かさや安全をもたらした。だが、それは、地球の自然資源損耗の代償としてであった。
- 世界の人口はわずかこの1世紀の間に10倍になり、今世紀末には約60億人に達する見込みである。そして、21世紀半ばには約100億人になると言われている。まさに人口爆発ともいえるべき状況である。
- 人類による資源の消費と、その活動がもたらす自然破壊で、いま地球はあえいでいる。人類がこれまでの歩みの延長線上に進んでいけば、遠からず地球の自然は失われ、人類は滅亡の危機に瀕することになる。21世紀を目前にして、いま我々は、自然を踏み台にして生きてきた人類の歴史を根本的に反省する必要がある。
- 近代文明思想は、人間を世界の中心に据え、自然を人間の利益のために利用・征服すべきものとみなした。それは、人間の無限のおごりを招き、現在の人類の危機をもたらした。
- このことを踏まえれば、21世紀の人類のめざすべき方向は、自然と人間の融合でなければならない。人間は自然の生態系の一部をなすにすぎないものであり、自然の中で、根源的な悠久の宇宙原理に従って存在していると考えらるべきである。
- このような、本来人間は自然の中であって、自然によってこそ生かされるという精神は、古来日本文化の中に連綿と受け継がれてきたものであり、その重要性をいま我々は改めて確認する必要がある。

人間像

生涯にわたって学び続ける意欲

- 21世紀は、変化の激しい、起伏の多い時代であり、しかも、一人一人のライフサイクルは長くなることが予想される。
- こういう時代では、学校で得た知識もそれだけでは長い人生を生きるよすがとはなりにくい。個々人が、人生の目的と段階に応じて常に新たな知識と技能を修得し、自己脱皮していくことが求められる。
- 学校時代は、個人の生涯学習体系の中で最も重要な位置を占めるものがあるが、決してそれだけで完結するものではない。生涯学び続けるに当たっての基礎的知識と意欲とを身につけるべき場である。それらを身につけた人間こそが、いついかなる状況にあっても、自分の人生を主体的に生き、自己実現を図っていくことができよう。

ゆたかな創造性と自己責任倫理

- 一人一人が、その人生の中で常に理想を求めて自己脱皮し続けるためには、確固とした内面を形成し、流行に左右されない独自の発想で物事を考え、それぞれの目標に向かって、自分自身で道を切り開いて行く能力を備えなければならない。
- 自分自身で考え、自分自身で道を選択する以上、その責任は自分自身でとらなければならない。
- そのような社会は、一見冷たい社会と思われるが、決してそうではない。個々人が自己の内面としっかり向き合い、自我を確立し、自分で責任をとるといふ厳しい生き方をするようになって初めて真の社会連帯が成立することになる。

広い視野と寛容性

- 21世紀は多種多様な価値観が直截にぶつかり合う時代であり、ここでは、それぞれの存在を互いに受容し合わなければ社会が成り立たない。一人一人が互いの存在の意味やそれぞれの持つ価値観を積極的に認める心の広さとやさしさが求められよう。
- さらに、今日の人類の危機的な在り様を思うならば、そのような他を思いやる心は、人間の世界のみにとどまらず、大自然への畏敬の念をもって他の諸々の生命体にまで及ぶものとなる必要がある。

学校教育の目指すもの

(1) 主体的に考え生きる人づくり

- いつの時代でも人は自分の人生の行き先を読み切ることはできない。特にこれからは将来予測の極めて難しい、変化のめまぐるしい時代となる。
- どのような状況の中にあっても自分を見失わず、自己実現を図っていくことができるよう、何事に対しても自分自身で思索し、自分自身で道を選択し、自分自身でその結果を引き受けるという主体的、創造的な姿勢を持ち続けることのできる人づくりを進める。

(2) 人々と支え合い生きる人づくり

- 人間は社会の中でのみ生きることができ、また、社会の中で他者との関係と結びことによって初めて人間としての意味を持ち得る。その場合、単に空間的・物理的に共生するのではなく、人と人が互いの存在を積極的に受容し、支え合い、いけば精神的な意味でも共生することによって、より価値の高い生き方ができよう。
- グローバル化が進み、ますます多様な発想、生き方、文化が混じり合っていくこれからの時代を視野に入れ、この共助・共生の姿勢、あるいは価値多元論としての日本文化における和の精神を基本に据えた人づくりを進める。
- さらに、かけがえのない地球と人類のこれからの在り方を考え、人間同士の共生という発想を超えて、人間と自然、人間と他の生命体との共生までもめざしていくものである。

(3) 地球社会を生きる人づくり

- もはや地球は運命共同体である。いずれの国も自国のみ良ければよとして済まされる時代ではない。特に、世界経済の中で重要な位置を占めているわが国は、その独自の文化や技術力を生かして積極的にこれからの世界の発展に貢献していく責務があり、国民一人一人のレベルから常に世界全体、地球全体を視野に入れて行動することが求められる。
- 21世紀の世界で全地球を舞台に活躍できるよう、わが国やふるさとの歴史・文化はもちろんのこと、他国の歴史・文化に対しても深い理解を持つとともに、確かなコミュニケーション能力を備え、地球市民としての立場で、地球環境問題、食糧問題、国際経済格差など人類共通課題の解決に力を発揮できる人づくりを進める。
- 特に、これからの人類の幸福にとって、科学技術の健全な発展が極めて重要であることを踏まえ、自然を大切にきたわが国の伝統的精神風土を生かし、人類と自然の調和・融合をめざす新たな時代の科学技術の振興に貢献できる、独創性に優れた人づくりに努める。

2 教育基本法、国の教育振興基本計画の基本的な方針等

【教育基本法】 第一章 教育の目的及び理念

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

(教育の目標)

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 二 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

(生涯学習の理念)

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

【国の教育振興基本計画】 今後10年間を通じて目指すべき教育の姿

【現状と課題】

- | | | | | | |
|--|---|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|
| ○経済的豊かさなどの社会の成熟化
→家庭や地域の教育力の問題
明確な目的意識や意欲を持つことがむずかしさ | ○経済性や利便性の追求、人間関係の希薄化等
→規範意識や倫理感の低下
責任感や正義感の欠如 | ○グローバル化
→国際競争の激化
異文化との共生 | ○知識基盤社会の到来
→知識・イノベーション
創出の重要性 | ○雇用の在り方の変化
→能力開発
再挑戦可能な社会 | ○超高齢化
→若者の減少
1/4が65歳以上 |
|--|---|--------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------|------------------------------|

【今後10年間の社会の変化】

【目指すべき姿＝目標】

① 義務教育修了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てる

幼児期から義務教育修了までの教育を通じて、学校、家庭、地域が一体となって、基本的な生活習慣の習得や社会性の獲得をはじめとする発達段階ごとの課題に対応しながら、すべての子どもが、自立して社会で生き、個人として豊かな人生を送ることができるよう、その基礎となる力を育てるとともに、国家及び社会の形成者として必要な基本的資質を養う。

- ア 公教育の質を高め、信頼を確立する
イ 社会全体で子どもを育てる

② 社会を支え、発展させるとともに、国際社会をリードする人材を育てる

義務教育後の学校教育の質を向上させるとともに、世界最高水準の教育研究拠点形成や大学等の国際化を通じ、我が国の国際競争力の強化に資する。また、個性や能力に応じ、希望するすべての人が、生涯にわたりいつでも必要な教育の機会を得ることができる環境を整備する

- ア 高等学校や大学等における教育の質を保証する
イ 「知」の創造等に貢献できる人材を育成する。こうした観点から、世界最高水準の教育研究拠点を重点的に形成するとともに、大学等の国際化を推進する

今後5年間に総合的にかつ計画的に取り組むべき施策の考え方

【基本的考え方】

- ①「横」の連携：教育に関する社会全体の連携の強化
- ②「縦」の接続：一貫した理念に基づく生涯学習社会の実現
- ③国・地方それぞれの役割の明確化

【施策の基本的方向】

- ①社会全体で教育の向上に取り組む
- ②個性を尊重しつつ能力を伸ばし、個人として、社会の一員としていきる基盤を育てる
- ③教養と専門性を備えた知性豊かな人間を養成し、社会の発展を支える
- ④子どもたちの安全・安心を確保するとともに、質の高い教育環境を整備する

3 県民意識調査における関連調査項目の結果

【質問(1)】 これからの社会には、どのような人がより必要だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○(6)「社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人」、(7)「よい人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力してものごとにあたることができる人」、(2)「自分で考え行動するなど、自立心をもつ人」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

○傾向はほぼ同じである。

【年代ごとの比較】

○(2)「自分で考え行動するなど、自立心を持つ人」が、20代でやや低い傾向にある。
 ○(6)「社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人」が、60代以上でやや高い傾向にある。
 ○(7)「よい人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力してものごとにあたることのできる人」が、60代以上でやや低い傾向にある。

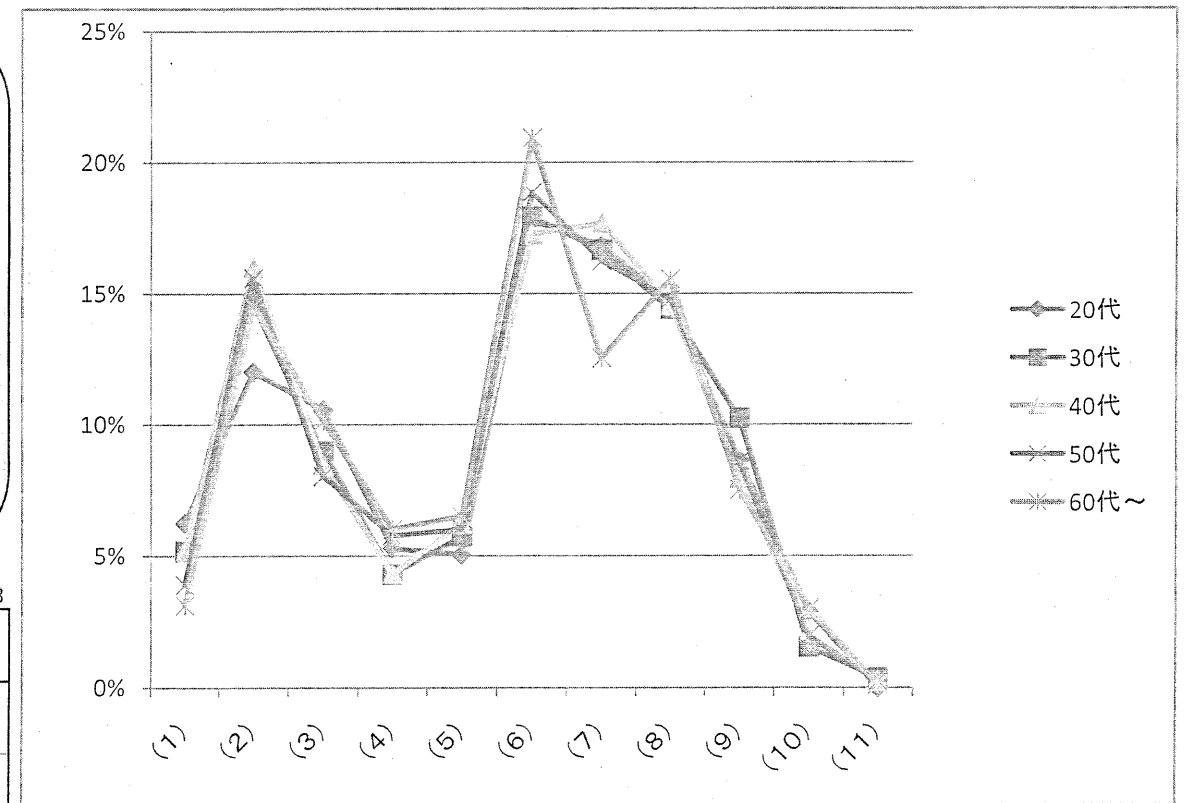
【子どもの学校種ごとの比較】

○顕著な傾向の差は見られない。

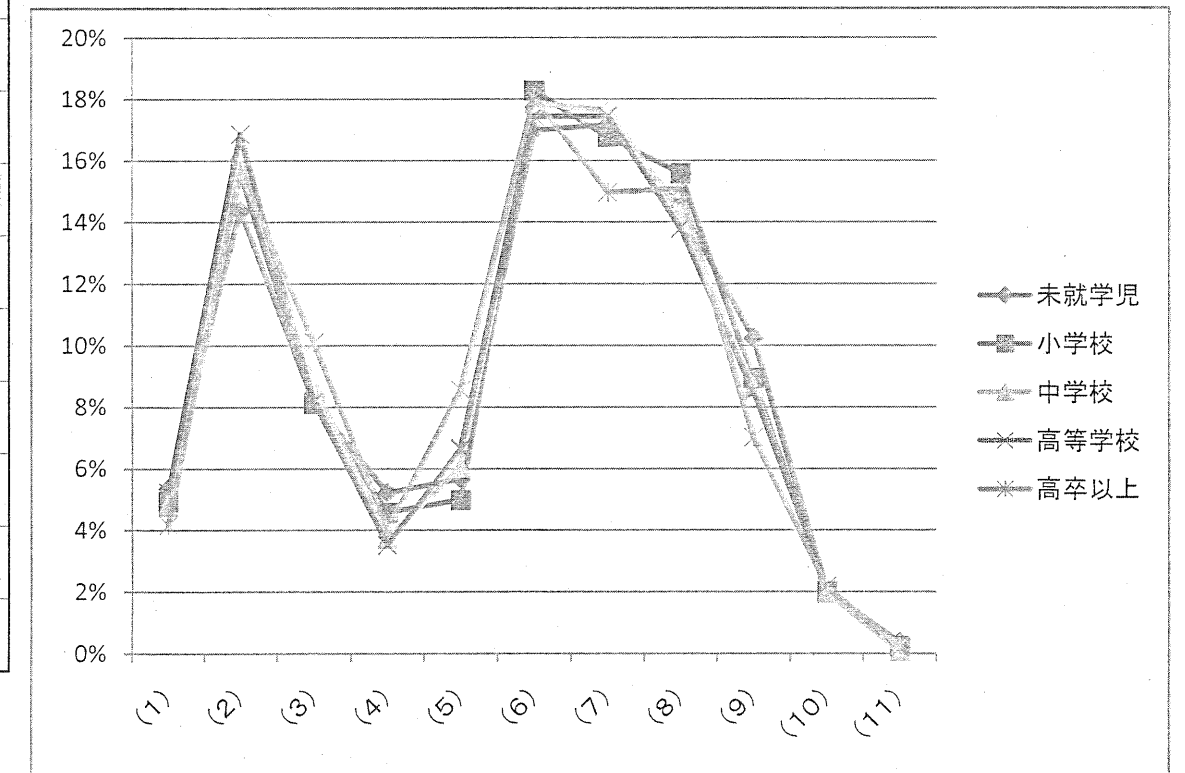
n=3,033 n=3,760 n=6,793

選択肢	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) いつも学びつづけ、自分を高める努力をする人	135 4.45%	188 5.00%	323 4.75%
○(2) 自分で考え行動するなど、自立心をもつ人	410 13.52%	611 16.25%	1021 15.03%
(3) 未来のことや新しいことを考える力があり、社会をより良くしようとする人	284 9.36%	319 8.48%	603 8.88%
(4) 地域の行事に積極的に参加するなど、地域を支えることに熱心な人	187 6.17%	142 3.78%	329 4.84%
(5) 豊かな心、すこやかな身体、高い教養をバランス良くあわせ持つ人	181 5.97%	229 6.09%	410 6.04%
○(6) 社会のルールを守り、正義や責任などの気持ちをしっかり持つ人	584 19.25%	646 17.18%	1230 18.11%
○(7) よい人間関係をつくるコミュニケーション能力があり、人と協力してものごとにあたることのできる人	477 15.73%	647 17.21%	1124 16.55%
(8) 苦しさ・つらさなどに耐える力を持ち、ねばり強くものごとにあたる人	449 14.80%	545 14.49%	994 14.63%
(9) 美しいもの、すばらしいことに感動する心を持ち、感じたこと考えたことを表現できる人	241 7.95%	352 9.36%	593 8.73%
(10) 文化・芸術、スポーツなどで活躍し、夢や感動をあたえる人	73 2.41%	69 1.84%	142 2.09%
(11) その他	9 0.30%	10 0.27%	19 0.28%
無回答・無効回答	3 0.10%	2 0.05%	5 0.07%

〈年代ごとの傾向比較〉



〈子どもの学校種ごとの比較〉



【質問(2)】これから子どもたちが育っていく上で特に必要なことは何だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○(9)「やってよいことと、してはいけないことの判断ができること」、(4)「困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと」、(1)「身体が丈夫で健康なこと」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

○傾向はほぼ同じである。

【年代ごとの比較】

○(3)「身につけた知識や技能を社会のために活用できる力を持つこと」は、年代が高くなるほど多い傾向にある。

○(4)「困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと」は、中間の世代が高い傾向にある。

○(7)「他人の立場を理解し尊重できること」が、20代でやや高い傾向にある。

○(13)「生命や自然を大切にすることを心をもつこと」は、年代が若くなるほど多い傾向にある。

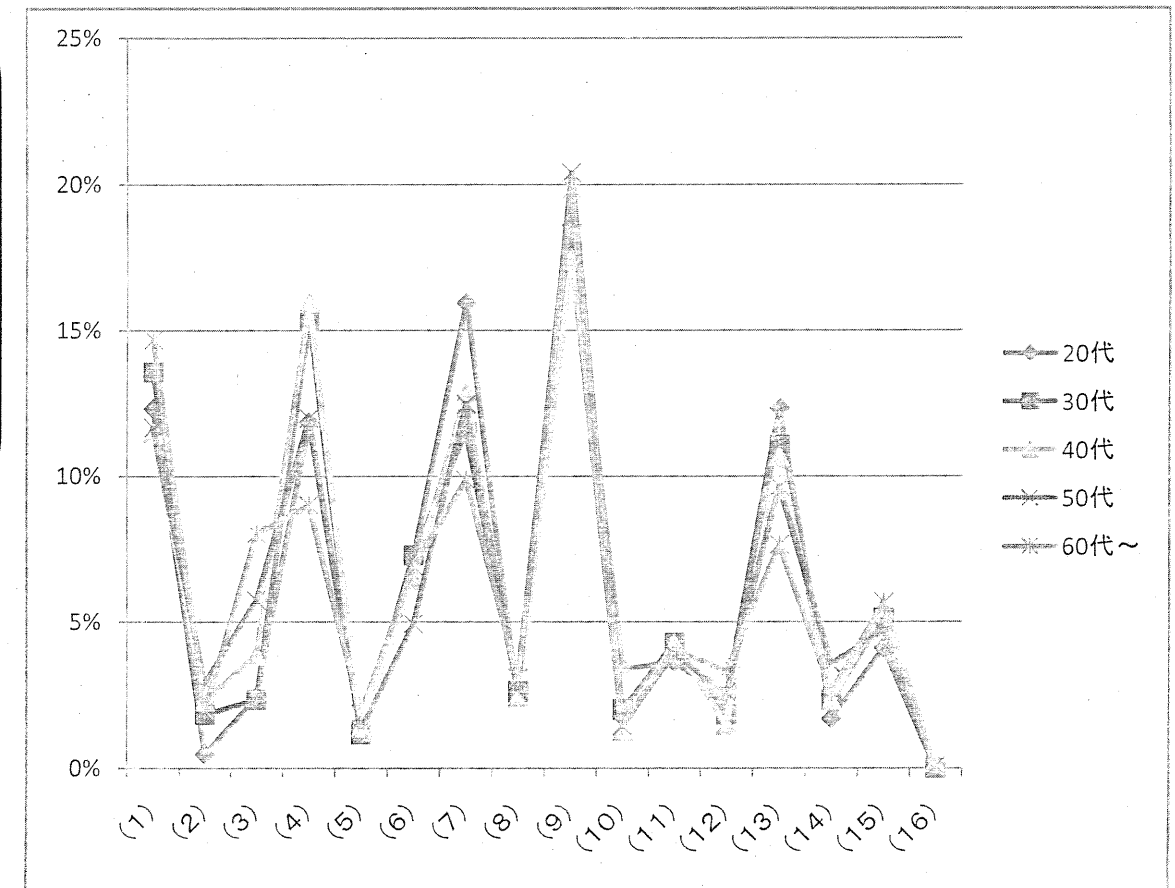
【子どもの学校種ごとの比較】

○(3)「身につけた知識や技能を社会のために活用できる力を持つこと」は、学年が進むほど高い傾向にある。

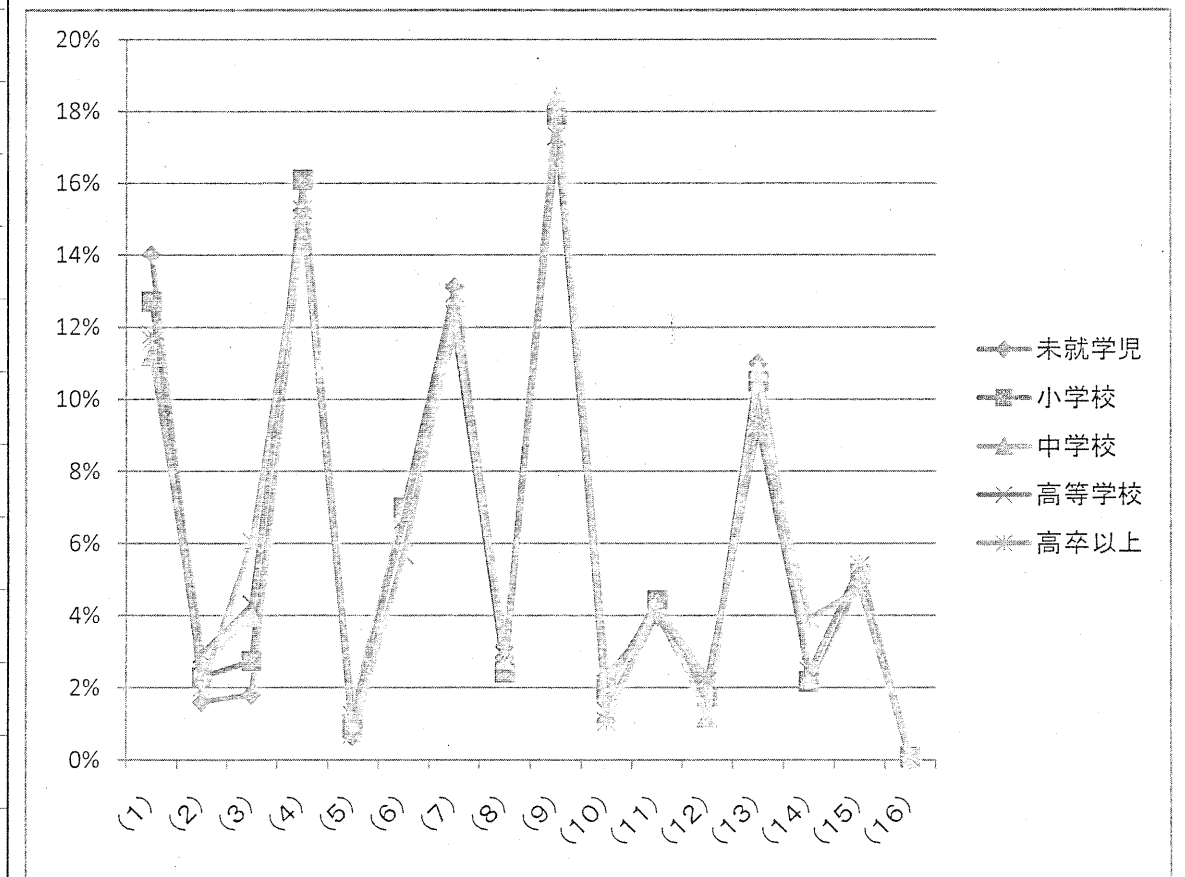
n=3,065 n=3,735 n=6,800

選択肢	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
○ (1) 身体が丈夫で健康なこと	373 12.17%	483 12.93%	856 12.59%
(2) 社会の役に立とうとする気持ちを持つこと	74 2.41%	74 1.98%	148 2.18%
○ (3) 身につけた知識や技能を社会のために活用できる力を持つこと	170 5.55%	116 3.11%	286 4.21%
(4) 困ったときにどうするか、状況を見て決められる判断力を持つこと	359 11.71%	590 15.80%	949 13.96%
(5) 新しい考え方で新しいものごとを創り出す力を持つこと	51 1.66%	41 1.10%	92 1.35%
(6) 自ら進んで学ぼうとする意欲を持つこと	183 5.97%	257 6.88%	440 6.47%
(7) 他人の立場を理解し尊重できること	374 12.20%	454 12.16%	828 12.18%
(8) 他人を信じ、良好な人間関係を築く力を持つこと	75 2.45%	100 2.68%	175 2.57%
○ (9) やってよいことと、してはいけないことの判断ができること	599 19.54%	656 17.56%	1255 18.46%
(10) 美しいもの、清らかなものに感動できること	48 1.57%	67 1.79%	115 1.69%
(11) 礼儀正しいこと	126 4.11%	157 4.20%	283 4.16%
(12) 伝統や文化を大切に、日本やふる里を好きになること	82 2.68%	58 1.55%	140 2.06%
(13) 生命や自然を大切にすることを心をもつこと	315 10.28%	386 10.33%	701 10.31%
(14) 国際的な広いものの見方ができる力を持つこと	83 2.71%	89 2.38%	172 2.53%
(15) 将来自分は何をしたいか、しっかり考えられること	147 4.80%	202 5.41%	349 5.13%
(16) その他	3 0.10%	3 0.08%	6 0.09%
無回答・無効回答	3 0.10%	2 0.05%	5 0.07%

〈年代ごとの傾向比較〉



〈子どもの学校種ごとの比較〉



【質問(3)】子どもたちの教育環境で、これからはどのようなことが特に大切だと思いますか。(3つまで)

【概要】

○(13)「安全・安心な地域づくり」、(7)「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」、(12)「隣近所が仲良く、大人たちと子どもの関わりが多い地域づくり」が多い回答となっている。

【一般県民と保護者の比較】

★傾向はほぼ同じであるが、保護者では、(13)「安全・安心な地域づくり」の回答率が最も高く、一般県民は(7)「親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること」の回答率が最も高い。

【年代ごとの比較】

○(4)「高い資質・能力を持つ学校の教師」は、年代が高くなるほど多い傾向にある。
 ○(10)「子どもに悪い影響をあたえる携帯電話やインターネットなどへの対応の指導を行うこと」が、60代以上で多い傾向にある。
 ○(13)「安全・安心な地域づくり」は、年代が若くなるほど多い傾向にあり、その差が大きい傾向となっている。

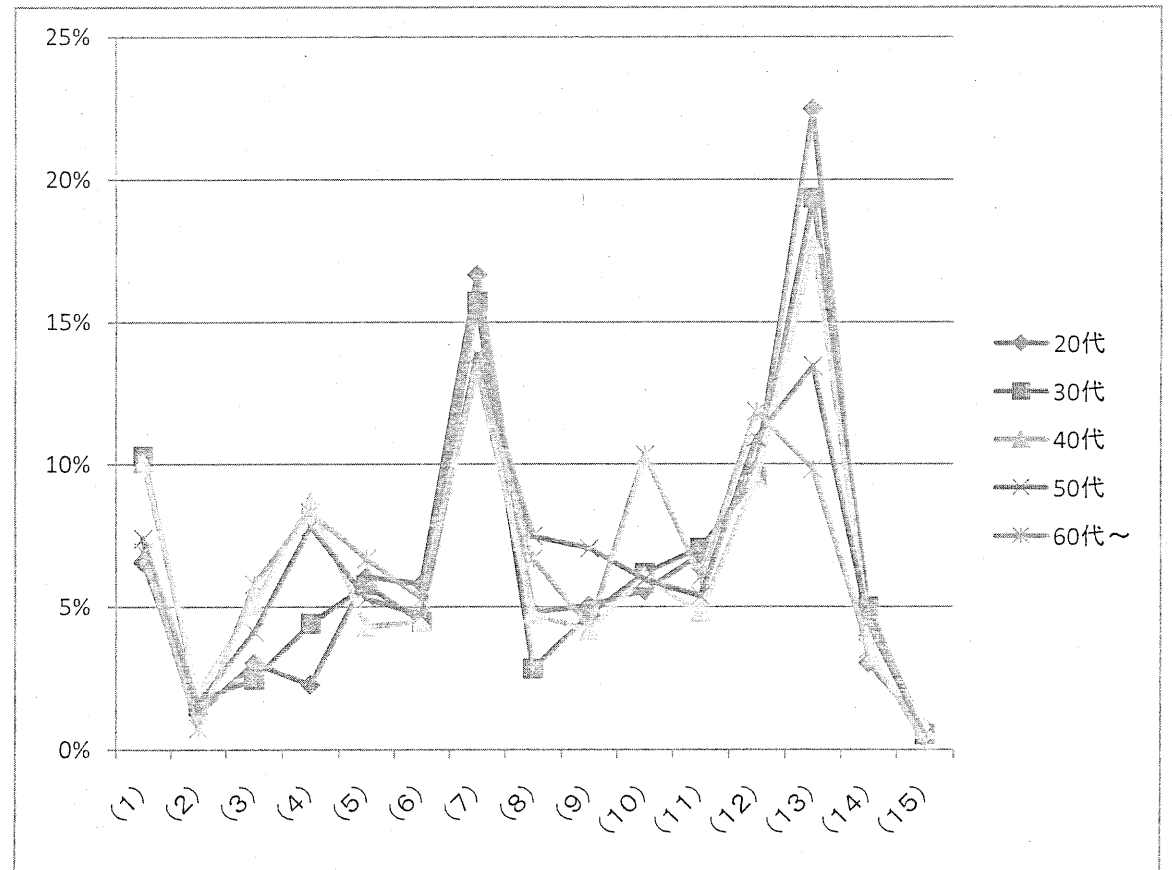
【子どもの学校種ごとの比較】

○(4)「高い資質・能力を持つ学校の教師」、(8)「幼児期(3歳まで)の家庭教育がしっかりとれるようにすること」は、学年が進むほど多い傾向にある。

n=2,998 n=3,459 n=6,457

選択肢	【一般県民】	【保護者】	(参考) 【総計】
(1) 学校で教える勉強や学習の内容	236 7.87%	342 9.89%	578 8.95%
(2) 学校の施設や設備を整えること	38 1.27%	66 1.91%	104 1.61%
(3) 特色のある魅力的な学校	153 5.10%	119 3.44%	272 4.21%
(4) 高い資質・能力を持つ学校の教師	213 7.10%	231 6.68%	444 6.88%
(5) 教師が子どもと過ごす時間をたくさん持てること	165 5.50%	179 5.17%	344 5.33%
(6) 障害のある子どもがきちんと学べること	151 5.04%	156 4.51%	307 4.75%
○★(7) 親と子のコミュニケーションがしっかりとれるようにすること	430 14.34%	491 14.19%	921 14.26%
(8) 幼児期(3歳まで)の家庭教育がしっかりとれるようにすること	203 6.77%	123 3.56%	326 5.05%
(9) 親が子育てを学ぶ場をもっとつくること	177 5.90%	139 4.02%	316 4.89%
(10) 子どもに悪い影響をあたえる携帯電話やインターネットなどへの対応の指導を行うこと	197 6.57%	228 6.59%	425 6.58%
(11) 放課後や休日に、子どもたちがいっしょに遊んだり活動したりする場や行事をつくること	183 6.10%	189 5.46%	372 5.76%
○(12) 隣近所の仲がよく、大人たちと子どもの関わりが多い地域づくり	342 11.41%	309 8.93%	651 10.08%
○★(13) 安全・安心な地域づくり	381 12.71%	692 20.01%	1073 16.62%
(14) だれもが、いつでも、気軽に身体を動かしたり、読書や文化・芸術活動ができること	114 3.80%	164 4.74%	278 4.31%
(15) その他	13 0.43%	24 0.69%	37 0.57%
無回答・無効回答	2 0.07%	7 0.20%	9 0.14%

〈年代ごとの傾向比較〉



〈子どもの学校種ごとの比較〉

